

2025 年度 第 1 回放送番組審議会 議事録

開 催 日 時 2025 年 9 月 29 日 (月) 13 時 30 分から 14 時 20 分

開 催 場 所 三次市防災センター 1 階会議室

出席者 委員 植田千佳穂・石田睦子・久保田博昭・添田龍彦・前田茂・藤井皇治郎・垣添博子・小木戸康志・中菊圭子・東山裕徳 (敬称略)

説 明 員 株式会社三次ケーブルビジョン
林代表取締役社長・坪井取締役・猶崎制作グループリーダー
田丸企画制作グループリーダー・加藤制作グループ員・伊達制作グループ員

- 1 開 会 出席者が揃ったため、事務局が開会を宣言する。
- 2 委員自己紹介 新しく審議委員になった、久保田委員が自己紹介を行う。
- 3 社長挨拶 お忙しい中、番組審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。今回の審議対象番組は「テン高ノ広島お好み漫遊記」です。レポーターのテンション高野さんが広島県内各地のお好み焼きを訪ね歩く内容となっています。今回の番組はディレクターの思い通りに作られているのか、皆さまからいろいろな意見をいただければと思います。
- 4 社側自己紹介 役員・社員が自己紹介を行った。
- 5 事務局 本日の出席状況について報告。本日は放送番組審議会委員 12 名中 9 名の出席を頂いており、放送番組審議会規則第 6 条 2 項により有効に成立していることを報告する。また、翌日のニュース番組「情報ストリートあっちこっち三次」で放送し、審議会の議事録を HP に掲載することを伝える。

6 審議

会長（司会）

審議に入る。皆様のご協力を頂きながら円滑な進行に努めてまいりたいと述べ、審議内容となる「テン高ノ広島お好み漫遊記」について事務局からの説明を求める。

番組担当者

番組ディレクターが2025年8月に放送した「テン高ノ広島お好み漫遊記」について、配布資料に基づき企画意図や番組概要、演出などの説明を行う。（事前に委員へDVDを送付）

会長（司会）

視聴いただいた番組の内容について、忌憚のない意見をお願いする。

委員

よくできていた内容だった。三次唐麺焼がどこで食べられるのかや、グランプリをとったことなどの紹介があって良かった。リポーターや他の出演者のテンションが高く、そちらに目が行ってしまい、情報が入りづらい感じがしたが、全国発信としてはいい番組内容だった。

委員

三次唐麺焼ができた頃のメンバーのインタビューがあれば良かった。開発時の苦労話が飛んだ感じがして、開発者やそれを応援した人の秘話があれば良かった。番組の本当のねらいはどこだったのか、市民に向けたものなのか、県内に向けたものなのか、全国に向けたものなのか分かりづらかった。

委員

番組冒頭、リポーターがお店に入り、すぐにお好み焼きを食べるのでなく、唐麺を作っている工場やソース工場へ行って、素材ができるまでの経緯を勉強してから、お好み焼きを食べる構成が良かった。

委員

お好み焼きで地域を盛り上げていこうという趣旨がどこまで盛り込まれていたのかはちょっと疑問視するところがあった。

委員

お店の場所がどこにあるか分かれば良かった。他にどこで食べられるのか知りたかった。苦労話をという意見もあったが尺の関係もあり、どこまでかいつまんで見ている方に有益な放送になるのかは難しいと思う。初めて作られたお店の方や唐麺を作った江草さんなどが出演していたので、改めて苦労話を聞きたいと思った。

- 委 員 以前は辛子をかけて食べていたが、唐麺もだんだんと質的に良くなってきたと感じる。商工会議所青年部が試行錯誤を重ねて作った麺の味付けはだんだん進化したと感じる。しっかりしたコマーシャルも必要で、青年部の意気込みが減退していると感じる。
- 副 会 長 身近な食べ物だけに改めて見て、いろいろ理解できた。加盟店やお客様の声もあれば良かったが、まずは三次唐麺焼の歴史を知る機会になった。第2弾、3弾もあると思うので、まずは関心を持って見させていただいた。
- 会 長 内容を伝えるためにいろいろ努力され、三次唐麺焼の歴史を理解するのに良かった。今、どう広がって、どう、楽しんでいるのか、もう一步踏み込んだ感想があればと感じた。
- 委 員 真っ赤になるほど七味をかけたり、こしょうをかけて食べる人がいたが、辛いものが好きな人が開発したんだと感じて、番組を通して三人の熱意が伝わってきた。
- 社 側 全国への発信なのか、市民への発信なのかについて、1本で両方を発信するもので、少しディープな情報が出せないかということで、製麺工場やソース工場など普段見ることができない場所が取材した。ただ、見られた方にどっち向きなのかと思われたので、その点は改善していきたい。開発時の青年部は今はもう青年部として活動されておらず、現役の青年部が引き継いでPRしており、まずは現役の青年部に声掛けをした。出演者には制作側の思いを汲んでもらったしゃべりをしてもらったというところで、開発当時の方が出演してもらった場合、また違った番組になったのではと思う。また、全国向ければ、宝来屋だけでなく市内の他の店舗などを14分の中で表現できたかどうか。1本の内容で市内外の方に楽しんでもらえる番組を作るにはいろいろな工夫が必要だと感じた。地図については全国の人が見た時に、お店の地図が出てもいいと思うが、今回は三次唐麺焼がメインで、お店の紹介ではないので、今回のような形になった。
- 委 員 2012年当時のメンバーは唐麺焼を広めるために、ステッカーを作つて自動販売機に貼ったりするなどいろいろ苦労をされた。過去・現在・未来を14分という時間に集約するのは難しいが、次回制作する

時はそれらをきれいに整理して、県外の人食べて来てもらえるように発信できるようにしてほしい。

委 員 テンション高野さんのテンションが高かったので、惹きつけられる
ように見ることできて、あっという間に時間がたった。

会長（司会） 皆様の意見が出揃ったようですので、事務局へお返します。

7 閉 会 事務局より審議会の議事録を HP に掲載し、翌日のニュース番組「情報ストリートあっちこっち三次」で放送することを伝え、次回の番組審議会は来年 2 月開催予定の旨を案内し閉会した。

以上